




セットと慶應義塾大学SFC研究所が、鵠沼地域を対象に「自然価値の評価手法の構築」に関する研究を開始

「まちの生態系を紡ぐ」をスローガンに、地域の景色や歴史、培われてきた住まいのあり方を大切に建売分譲を手がけるセット。素材感のある、落ち着いた大人の住宅は哲学とオリジナリティを感じさせる。そんなセットが、慶應義塾大学SFC研究所とともに、鵠沼地域を対象とした「自然価値の評価手法の構築」に関する研究を開始した。湘南の魅力というと感覚的にとらえられがちだが、「感覚的な価値」ではなく「測れる価値」としてとらえ直そうというものだ。地域に生態系が発揮してきた機能に照らし、現代住宅とその周辺の環境的役割を再評価。緑化や景観配慮、雨水循環といった個々の取り組みが、地域全体としてどのように重なり合い、環境価値の向上に寄与しているのかを明らかにし、定量的な評価手法として整理することを目指す。今後、家づくりにおける「共通言語」となるかもしれない。

松があるまちなみや、生垣の石積み、海辺の強い太陽が映す葉陰。感覚的に懐かしさや安らぎを感じる土地の魅力を「測れる価値」としてとらえ直そうという取り組み。（右上）右から、慶應大学SFC研究所一ノ瀬研究室の山田由美特任講師と一ノ瀬友博教授、セットの谷賢一郎代表とサックス夏子さん

株式会社セット
藤沢市南藤沢8-7-5F
Tel. 0466-24-2478



素材や、窓からの景色、陰影のとらえ方など、セットが手がける住宅には「まちの生態系を紡ぐ」という姿勢が随所に感じられる。今回の取り組みが今後セットの家づくりにどんな影響を与えていくか興味深い

Photo / Hiroshi Inomata